



サカタニ友の会ニュース

公と私



お酒をかうためファミマのレジで並んでいると、お客さんから「何で並んだはるの？」と怪訝な顔で声を掛けられる。

交際費年額

H17年	153千円
H18年	135千円
H19年	301千円
H20年	177千円
H21年	183千円

「晩酌の酒を買いますね」と心えると「自分の店やのに？」と言われる。それには「店の物(着)には手をつけまへん」と常に返事をする。

我が家は「店の物(着)を手を付けられ・手をつけて」二度破産寸前に落ちいったことがある。一度目は1955年(昭30)二度目は1961年(昭36)のことだ。

それがトラウマとなり「店(公)と個人(私)」とキツチリ区別、公私混同しないと決めた。そして42歳まで一度も税金を納める必要ない低所得時代を過ごした。それも又トラウマになった。

後に納税できる収入になつた喜びも大きく、納税は国民の義務」意

投稿では発行者
株式会社サカタニ
集西楽・サカタニ
ファミリーマート
サカタニ京阪七条店
〒605-0993 京・東山区七条こころ坂下
・075-561-7974
URL www.sosake.jp/
E-mail info@sosake.jp
とんからりんは
毎月発行の
会員新聞です
編集・西谷義郎
yosirou@sosake.jp

かしくて書かないが、その方がいらしゃるお陰で「始末して納税」をす「トラウマ」の一つから解放された。脱税はしないが、税法の特典を十二分に使い正しく納税すると決めた。(多分0円)

この不景気、納税できる程収益があるか疑問だがもう一つの「公」お客様(会員さん)のご支持にお応えする努力すれば結果オーライだろう。「集西楽サカタニ」を宜しく。首相の写真「ツイッター」借用。

緩く・厳しい

一月に「ギャラリー集」で「はやかわよしみ」展を開催日下さつている税理士早川嘉美先生と偶々税金の話をした翌日、次の【鳩山一家の贈与税問題(京都新聞1/21)】経済天(京図・政和)の記事が掲載された。大要は、鳩山首相兄弟の実母からの巨額の資金贈与に対する贈与税(五億数千万円納入済)

第61回・1/24開催 朝粥食べておしゃべり会報告

朝粥を食べる前・(9時~9時40分) 財団法人京都市景観・まちづくりセンター事業第二課長高木勝英様より「京町家とまちづくり」のお話をいただきました。



写真は本町正面上、西側に昭33年?ころまで有った豊臣時代から有名な大仏餅(隅田家)建物・今なら重文級の惜しい町屋(当日の話と別です)

高木勝英様は、京町屋の成り立ち、特性をビデオで「説明、京都の「町屋再生」取り組みの事例をお話下さいました。

の納付額について、無申告加算税、延滞税、重加算税を税務署が、どのような判断したのか公表が必要との事である。」

一般では、百万でも大金、千万円もなれば贈与税が課税されるのは常識として、政治家なら厳しく法を守る見本を示す立場だと思つ。自らを罰して、罰則課税も最高の金額を納めるべきだろう。

このことを書いたのははわけがある。昨年8月26日東山税務署から簡易書留で「納附告知書」が届いた。6月末源泉所得税を納付期限に7日遅れたのでその不納加算税を払えである。額は納税額の5%。日額にすればサラ金利率より高い。翌朝10時15分、税務

署に抗議と減免を申し入れに行った。対応はHZ財務事務官。不納加算税は利率でなくペナルティー。不服なら申し立てよ。の回答。丁重な言葉使用で要求は空振りだった。仕方なく納付期限最終日に署で払い、「嫌々納付した」と留守だったHZ氏に伝言を残し帰った。不服申し立ての手間より安いと諦めたのである。これに懲りて、12月分は年末調整もして期限内に納めた。

本来源泉徴収は国が個々に集める手間を事業者に肩代りさせているものとは私は思っている。間違いだろつか。返事が欲しい。大金持ちには「緩く」私達には厳しい「国」やなあ。

「とんつきー」

この「とんつきー」は「緩く厳しい」の補足版。Yは私(ヨシちゃん)Hは税務署の方(HZ氏)。交渉は1時間半に及びました。「H・決められたことなので」に対して「Y異論があつたらそれを「上」に伝えるのも公務員の務めだろう」。「Y・未A・十日払いのコンビニシステムでは無理」。「H・12月締めず11月で計算されたら」。「Y・そんな便法は法の原則違反でむしろ納付期限を十日遅らせよ」。「Y・十日遅らすことは法改正でなく通達で出来ると思う。そうして欲しい」。「H上・には伝えます」。「Y・必ずな」。「Y・ネットで調べた不服申し立てをしたら税務調査が入つたとあつた。その立会いは嫌だ」。「H・そこまで調べて来たのですか」。「Y・当然」。「Y・この位額やマケテえなあ」。「注・泣き落とし戦術」。「H」。「Y・もう帰るわ」。「このやり取り公表するかも」。「H」。「本来は公表する気は無かつたが、贈与税で頭に来て書いた。まだ血の気が多く若いなあ。独白

ヨシちゃんのこと
ひとりごと



初夢を

見ましたか?

今年のお正月は「おめでとつ」もお雑煮なしでした。尤もコンビニをして24年、盆正月もない商売ですから、ゆっくりにお祝いは諦めています。お正月は人手が少なくなり、「初夢」を見る間もなく毎年「メの内」は終わります。

縁起の良い初夢は、一・富士(無事)二・鷹(高い)三・茄子(成す)の掛け言葉から、徳川家康のお好み順だそうです。皆さまは如何でしたか、多分素敵な「初夢」をご覧になられたとお慶びいたします。物の本によりますと、夢とは、眠っている間に起こる体

感現象の一種類で、人に限らず、ほとんどの温血動物が見るそうです。犬や猫が寝ているのに突然手足を動かすのは夢を見ているのでしょう。普通なら寝ていると何も感じていない大脳が、起きていると同じ様な活動状態を示す脳波になるのが夢で、その活動の刺激で反射運動が映像だけでなく、身体が動いたり、声を出す(寝言)することも「夢」の延長でしょう。家人によりますと私は良く

寝言を言うそうです。そういうわれれば夢も良く見ます。若いときは、楽しく嬉しい夢を多く見ましたが、最近是非常に実存的な夢が多い、日々の刺激の質的变化が原因だと思えます。そう考えると夢と現実とは、決してかけ離れたものでなく、体験や願望が脳波を刺激した結果が「夢」になるのでしょう。

「夢」という言葉は、睡眠の時にだけでなく「望みや志」にも使います。宝籤を買って3億円の夢を見る人もいます。月千五百万円を貰える人は宝籤の夢は見ず、モット大きな地球環境改善の「夢」をお持ちのようで「幻」にならず実現するご努力に期待します。私は夜の夢も良く見、別の夢も絶えず持つてきました。



壊れた、壊された夢、消えた夢も山ほどあります。それでも飽きずに同時進行形で幾つか見ています。その中に「理想の京都」の姿があります。五条以南塩小路までの河川敷きの景色は商店街からの運動が実り「夢」に近い姿で実現しました。

「京都水族館」は「理想の京都」の夢と共存しません。梅小路公園の水族館用地はもつと価値のある使い方がありと思いが、それで微々たる力ですが「反対側」に加わっています。2月7日梅小路公園へきてください。それが私の「初夢」正夢になるかなあ。関連のチラシを2部同封しました。

金魚酒をご存知?

金魚酒(きんぎょしゅ)をご存知ですか? 中国は秦朝のころ、水槽の金魚に稚魚から、一日ひと匙づつ茅台酒を垂らし酒気に慣れさせると成魚になると頃、茅台酒のみを満した水槽の中でも泳ぐことが可能となる。この金魚を盃で掬い上げ、酒と金魚を一息で飲み干すと不老長寿に効くとされ靈薬に大流行したそうです。この行為が今の金魚すくい

の足で、酒蔵の清酒生産量低下、

豊田勇造さんのライブを観に

七条サカタニ

行ってきました!



心地よい歌声と魂のこもったギター演奏にハマりました。朝目が覚めたら会社がつぶれてたそれでも大丈夫やこんな時こそブルースや時代のこと、京都のこと、死んだお母さんのこと、住所録のことなんでも思いをのせて詩にしてみよう勇造さん歌詞が1行かけたらあとはいまいく...というお話にああ、絵も線が1本かけたらあとはうまくいくなあと思いを増やす方法として、消費者に届くまでの流過程で次々と加水された結果、金魚酒と呼ばれるほど薄い酒が出回ってしまったのです。蔵にある原酒は課税済みですから、良い酒を選び、どの程度「割り水」するかは「酒屋の腕に掛かるのです。儲けだけに走る酒屋や酒の利きが下手な店では金魚酒と言われるものが売られていました。後、酒税法が変わり、戦争が続き配給になり金魚酒も飲めない時代が暫く続きました。

ながら聞いていました。休憩中にドリンクでビールをいただき、いい気分です。勇造さんの保育園の時の先生がライブを見に来てらっしゃいました。78才の先生はお元気でとてもうれしそうに「ああいさつされました。来てる人みんながあつたかいい気持ちになるほんとうにいいライブでした。遠方からはるばる聞きにこられるファンもいるくらい勇造さんのメッセージソングは心に響きます。還暦を迎えてもまだまだパワフルな勇造さんセツシヨンのベース(山田晴三さん)とオルガン(西野桂子さん)も素晴らしかったです。去年の2月こゆるり個展でお世話になった集・西・楽サカタニで毎年この時期にライブ開催予定です。あと10年?は続けられるそうなのでぜひ一度勇造さんのライブを聞きにきてくださいな(こゆるりおもろいブログより)

「酒粕(さけかす)」

醪(もろみ)を搾り終わったあとに残る固形の部分が酒粕です。普通の酒は使った原料米の20%程度が酒粕、大吟醸は酒粕が50%以上にもなります。酒粕は、ビタミンなどの豊富な栄養分があるため健康食品だと見直されています。

京都&東山 ぶらりピカリ

21

帝國陸軍16師団と共に出来た

師団街道

戦後生まれの読者のために師団の説明がある。



師団とは軍事用語で、地域や期間に独立し、

一正面の作戦を遂行する能力を保有する最小の戦略単位とされている。現在の自衛隊にも12師団ある。(やっぱり軍隊)

さて、ここで言う師団街道は、川端塩小路橋疎水脇から、名神の南までの道路名である。



1905年(明38)当時伏見町に(後京都都市編入)京都護衛のため第16師団が編成され以後伏見は陸軍の町に大変身した。

その軍(師団)の部隊のあった所に現在ある施設などは、**第16師団司令部**(現聖母学院・写真)・**騎兵隊**(西伊達町現深草中学、市営住宅附近)・**野砲兵隊**(池の内町、現藤の森中学附近)・**歩兵元第9聯隊**(現教育大)・**輜重兵大隊**(越後屋敷、現附属高校附近)・**陸軍兵器廠** 現龍

大、警察学校)・工兵大隊(讃岐町、現桃陵団地)・師団糧秣部(堀田町、現丸都青果市場附近)・**練兵場**(現西浦町)・**射撃場**(鞍ヶ谷町)・**衛戍病院**(向畑町、現国立病院)・**憲兵隊**(鍵屋町現伏見税務署)・**軍用監獄**(東伊達町)等の広大な農地宅地が否応なく収用された。

その軍の南北移動用に造られたのが師団街道。東西用に疎水(開通1880明23)は軍より先に出来ていて疎水(京阪も)跨ぐ形の第一、三軍道がつくられた。九条跨線橋(コセンキョウ)も師団街道との平面交差を許されなかった結果だろう。



1915年(大4)七条大橋が完成、師団街道と接続した。鴨川の(戦前から)数ある橋のなかで唯一無傷の頑丈な橋は陸軍の意向に添ったものではなからうか?。川端七条で、万葉(ばんだ)の桜か襟の色、花は吉野に嵐吹く(陸軍歌・歩兵の本領)歌いながらの歩兵行進と兵隊さん達の汗臭い匂いは今も子供時代の思い出として残っている。

軍都になった伏見町は酒の消費地になり、京都の酒造蔵は移転や新蔵づくり「灘」と並ぶ酒の生産地になった。当社2階に「陸軍旗入り月桂冠」の看板があるが昭和初年のものである。余談では有るが、16師団は、



写真は「九条跨線橋」疎水・鴨川を跨ぐ本町・師団街道・陸軍橋1937・昭12・市電九条線と共に完成

日中戦争では、華北南京・1944年(昭19)フィリピンと転戦レイテ島で米軍と戦闘し壊滅し師団長は終戦待たず自決。生き残ったのは6百余名という。父は召集でその部隊に入隊したが陸軍飛行学校に転属、戦地に行かず助かった(次回・東山の坂)

大徳寺

真珠庵

金澤ひろあき



2009年の11月のある日。朝方は秋の良い日よりです。昼すぎからどんよりと曇り、そして大雨となります。秋の大雨の中、大徳寺の真珠庵へでかけます。酔狂ですね。真珠という名なので、暗がりの中で、ひそと光るものがあるかもしれせん。京都といっても、アスファルトやビルのある所は灰色できたない。土と緑と石がある所ではじめて美しいと思えます。大徳寺の石だたみ、そしてそ

れをとりまく苔。雨に濡れて生き生きとしています。かたや、来ている人間は、悪天候のせいかしよぼしよぼしています。本坊の裏手に、真珠庵。一休禅師を追慕した堺の商人が作ったお寺だそうです。ふすま絵は「蛇足」という人が描いている四季図。「蛇足」なんていう名前がおもしろい。人生ナナメにみているな、と思つたら、何と代々襲名するらしい。

わび茶に縁の深いお寺で、村田珠光が作った七五三の庭というのがあります。意思が3メートル沖に並べてあります。何か言いたいこと、表現したいことがあったのでしょうか。凡夫の目には、「そんなもんかね」というところ。

金森宗和が作った茶室があるのですが、雨のため、中は真っ暗。狭い、暗い2畳の茶室で、主客一亭の茶事をやったら、さぞや緊張するでしょう。利休の孫、千宗巨が「姫宗和は根性悪」といったそうですが、それがほんとうなら、緊張はもっと高まりますね。長谷川等伯の描くふすま絵の四皓図(しごうず)。それからエビが大好きな禅僧と、ブタの頭が大好きなおもしろい。グルメな坊さんですね。ついでに一休さん、森待女という美女が大好きで無常と言いなながら、皆生きるこ

とが大好きだったよつです。なお、一休さんの木像の上に、仏教最高の教えが書いてあります。「諸行莫作 諸善奉行」「悪いことはするな 良いことをやれ」という意味だそうですが、それが守れたら、とっても良い人生になりそうです。ぼちぼちと 熟年落ち葉と話す

ひろあき

サカタニ友の会に、知人・友人・ご近所の方に参加をお勧めください。

年会費1200円ですが、ご損はさせません。

2回・五〇〇円買物券を進呈

毎月50円割引券を進呈

この券はファミマ、集西薬サカタニご使用可。

会員登録価格での商品配達、試飲会、蔵見学、朝粥会の会員割引有り。

2階の「集西薬サカタニ」でお買物は1000円で1ポイント、配達分は2000円で1ポイント進呈3000ポイントで3000円のサービス券発行

登録会員様はカードが無くても自動的ポイント加算

会員様には、情報紙「とんからりん」や

案内をお届け

未成年やご同業の方、当社の都合で入会を断る場合有

サカタニ友の会は、3月末会員証更新です会員さまに3月に申込書をお届けします。

これからご入会の方は、来年度会員とします。是非とも「友の会」会員増やしにご協力下さい。

サカタニ友の会を増やしたい!

サカタニ友の会

サカタニ友の会

サカタニ友の会

酒屋で生きて 生かされて

第四十五話

一字の違いで 人生が変わる

「ワイン
グリース・
サカタ」
の店名で
酒小売を

(現在地)開店したのは1974年(昭49)10月1日。その10日後、祖母は人が羨むような大往生しました。前日に長時間話をし、お祝いも貰って別れてます。その祖母が生活していた左京区吉田の教会で(祖母は天理教教会長)遺品整理中私の「臍の緒」が発つかりました。箱に祖父喜一郎の字で「喜郎・2月×日」と上書がありました。戸籍では私は3月生まれ、名は喜郎です。

一ヶ月の間に名前が代わった事実を41歳になって知りました。今更済んだことをほじくることがないと、父に事情を確かめませんでした。

その5年後、父が亡くなり、現在地を相続します。そして「喜」と「義」の大きな違いに始めて気がつきました。

私と父は年令差は18。生母(90才で3年前亡)と16です。父母は私の(戸籍上生まれた)翌日役所に婚姻届、その2日後、私の出生戸籍届けし、その一年後に協議離婚しています。今は「出来ちゃった婚」は平気ですが、戦前のこと、祖父は世間体を考え、自分の子で育てる決め喜郎と名付け「臍」に書きつけたと思われれます。

それに対して、祖父母が崇敬していたお方の親子関係は正當にせよの意見に従い、祖父は幼少で亡くなった兄「義太郎」の一字を冠して私を「義郎」名付け父の嫡出子として届けを出したと推察します。

私の8才の時、父は再婚。その前、祖母に仏壇前で、今まで「里」で病氣療養していた「お母さん」が戻ってくる。メンメーさんと呼び番頭と思つてた人が義郎の「お父さん」だ告げられ一度に両親が出来飛び上がるほど喜びました。翌年、妹(昨年没)が生まれ、祖父は敗戦直後58歳で亡くなりました。一人息子の父が家督相続しました。当時相続法は男の子が有る場合、長男が継ぎ妻(祖母)も長男以外の子の権利は認めてないのです。戦後、妹・弟(宗男)が増え

昔から「ネギは 風邪にいい」 と言われているが、

富山大大学院医学薬学研究部の林利光教授のマウスを使った研究で分かった。



教授は、「大分名産のネギで健康にいいものではないか」との相談をきっかけに研究を始めた。

最初に、試験管を使った実験で、一定の条件で抽出したネギの成分が、ウイルスの増殖を抑えることを確認した。続いて、マウスに1週間、ネギの抽出物を経口投与した後、インフルエンザウイルスに感

一緒に育ちます。16才の時、母と思つていた人とは義理関係と知り、自の生き方に悩む日々が続きます。当時から、父の周辺にはいつも複数の「女性」の姿があり、弟たちの母とも離婚。そして再再婚しよう一人の妹が生まれ、その子が幼児の頃、父が亡くなりました。もし私が「喜郎」祖父の子なら父と兄弟。相続は無関係です。それどころか弟妹たちの「母」と「父」の出会いも無く、私も酒屋をせず違う生き方で、店も今と違った姿で、結果として皆さん方と出会うことも無かったでしょう。「喜と義」タツタの一字違いで、人間の生き方に大きく影響を与えたのです。相続は血が同じ兄弟でも争いや仲違いがあるこの頃ですが



昭和31年頃・吉田の教会で祖母を真ん中に、父を除いた家族写真、右端男性は義郎・坊やは常務の宗男、妹とその母

私共は円満に完了しました。異母四人異父三人。弟妹と全員仲良くしています。以前に書きましたが、幼くして別れた生母が亡くなる一年前に異母妹たちと共に箱根旅行し母88才の背中を子72才が流せました。これは「喜」でなく「義」を選ばせた方、選んだ祖父母の決断の結果です。一期一会は千客万来にも通じると心して出会いを大切に生き且つ働いて参ります。

染させた。ネギ

の投与はその後の抗体を増やす効果はないと増えたとされる。最もウイルス投与から3日後のウイルス量を、肺と気管支で調べたところ、ネギを与えたマウスのウイルス量は、与えなかったマウスの3分の1程度に抑えられた。また、ウイルス投与から3週間後に、マウスの体内にある抗体の量を調べた。その結果、ネギを与えたマウスの血液中などの抗体は、そうでないマウスに比べ3倍近く多かつた。

林教授は、タミフルはワクチンを全滅させるため、体内の抗体を増やす効果はないと指摘し、ネギがウイルスを減らす一方で抗体を増やしたことを評価した。教授は、「体には元々、細胞やウイルスをやっつける免疫がある。ネギは免疫が機能する初期の段階に働きかけ、予防的に体の免疫力を高める効果があるので対応できるわけではないが、ウイルスに対する体の備えを強化することができる」と話している。(2010年1月25日朝日新聞のツイッターより引用した)

編集後記

「とんからりん」125号をお届けした。A4二枚裏表。「とんとん」と早く書けるとときと、中々進まない時があります。

今号は書くのに苦労しました。十一月に連載「酒屋で生きて」記事のダブリりを見つけた整理にかかりましたが、まだ半ばです。

それで今までに書いてない生まれた当時のことを「45話」にしました。十六才で知つたが封印していたことです。今は大団円で決着しています。我に責任無しですが、当時父は徴兵検査前(未成年者)ですから生産者や祖父母は大騒ぎしたでしょう。

祖母は「節から芽がでる」とよく言いました。私生活や事業でも幾度か節目にぶち当たりました。が、何とか乗り越えて来られました。行詰り、どうでもなれ状態も再々でしたが、不思議に「時」や「人」が味方をして助けられたのです。

これまで屈折の多い生き方が影響し、癖の強い人間になっています。書き物を読み自分でも「嫌」になります。もう歳で修正不能です。

ひよんな生まれ方の男と、偶々の出会いで「とんからりん」をお読み下さる「ご縁」となりました。不運と諦めてお付き合いを。芽が出るかも？